

私たち抜きに
私たちのことを
決めるな！



しょうがい者が あたりまえに 生きられる社会へ

Nothing about us
without us!



みやぎアピール大行動実行委員会

News

発行／みやぎアピール大行動実行委員会事務局
メール：appeal318@hotmail.co.jp

2024.1.12. FRI No.22

精神障害者のくらしと医療を考える仙南ネットワーク みやぎユーザーズアクション共同で県と懇談 “移転して傷つく患者をこれ以上出したくない”



昨年12月27日（水）みやぎユーザーズアクションと精神障害者のくらしと医療を考える仙南ネットワークの2団体で、県立精神医療センター＜分院化＞構想についての内容把握とあわせ富谷市移転反対を再度県に求めました。

精神障害者のくらしと医療を考える仙南ネットワークからは、この間の県の当事者置き去りに進められている移転問題を批判しながら「批判されるたびに方針が変わって最後は分院をつくると、当事者はその方針転換の度に不安が助長され、生活が脅かさ

れている」と指摘。

みやぎユーザーズアクション実行委員会からも「名取で長年築かれたこの地域包括ケアシステムの崩壊が起こると、富谷で地域包括システムがまだ未成熟である。移転して傷つく患者をこれ以上出したくない」「当事者らへの影響が考慮されていない。自分事として考えてほしい」「移転構想は“当事者に寄り添っていない”白紙撤回すべき」との意見が相次ぎ、富谷市移転反対を強く訴えました。

また、26日に行われた地域医療構想調整会議の開催について、前日25日に告知されている現状を踏まえ、＜県情報公開条例違反＞の指摘し、再度、県民の「知る権利」を踏みにじる行為について強い抗議の意見も出されました。

ユーザーズアクションでは、年明け11日付で＜分院案に対する抗議文＞を知事宛に送付しています。

私たち抜きに私たちのことを決めるな！ 名取市への県立精神医療センター分院案(サテライト案)に対する 村井県知事宛「抗議文」送付

精神医療ユーザーや支援者でつくるみやぎユーザーアクションでは、昨年、村井知事が県議会において、我々精神医療を利用する者の声を聴かずに進めてきた県立精神医療センター富谷市移転を前提に、患者のためであるとして名取市へ分院を設ける案を示したことを受け、「抗議文」を村井知事宛に1月11日付で送付しました。

2024年1月10日

宮城県知事 村井嘉浩 殿

2・23みやぎユーザーズアクション実行委員会

共同代表 山本 潔

川村有紀

stop.iten0223@gmail.com

私たち抜きに私たちのことを決めるな！ 名取市への県立精神医療センター分院案(サテライト案)に対する抗議

2023年12月6日、村井知事は県議会において、我々精神医療を利用する者の声を聴かずに進めてきた県立精神医療センター富谷市移転を前提に、患者のためであるとして名取市へ分院を設ける案を示した。これまでの富谷市移転の方向性を変えないがための案であり、これまで長く名取市に築きあげてきた「にも包括」を縮小、または崩壊させる問題を含み断じて看過できない。精神医療ユーザー、医療関係者の懸念や反対の声を軽視していると断じざるを得ない状況は極めて遺憾であり、ここに強く抗議するとともに富谷市移転ありきの分院案の撤回を求めるものである。

村井知事は、2021年9月に「4病院2拠点病院再編」の方針を打ち出して以降、県立精神医療センターを巡り「名取市新病院への精神外来設置」「名取市への民間病院公募」「分院案」など、批判されるたびに方針を変えてきた。それ自体が我々精神医療ユーザーに多大なる不安と多くの精神的苦痛を与え続け、平穏な日常を脅かす要因となっている。

また、分院案において、医療観察法対象者の受入れはまだ示されておらず、児童思春期の外来・入院機能がどうなるのかも示されていない。医療観察法下の方たちの中には名取市のグループホームで暮らしている方が少なからずいる。安心感のある日常の中で病状が安定し、日々生活している。病院の移転により日常が壊されれば、病状の再燃が憂慮される。県立精神医療センターの児童精神科にはやっとの思いでつながった子ども、保護者が多い。移転によってその機能が失われるのであれば、多くの子どもや保護者が大変な困難を抱えることになる。これは明らかに立場の弱い人々を切り捨てる行為であり、我々は断じて許すことができない。

「にも包括」についても県の説明は具体性を欠き大きな懸念がある。「にも包括」と「県立精神医療センターの移転」は対極にあるからだ。精神障害者に対する偏見差別が根強い状況下で、精神医療センターの周囲で40余年をかけて培った風土や社会資源が、暮らしを維持しよりよくすべく「にも包括」の核になるのは間違いない。にもかかわらずそれらを破る今回の計画は常軌を逸していると言わざるを得ない。精神医療ユーザーにとって、暮らしを保ち日常を形成することにおいて、医療と日常を送る地域は車の両輪であり、日常がなければ病気の回復など決して成り立たない。そして、その日常を支える環境は一朝一夕で出来るものではない。

さらに、この問題は民間の企業誘致とは全く異なる。先のように精神医療センターだけではなく、構築される地域にこそその意義があるからだ。関わる人がどのように生き、人生にどのように向き合っていくのかという「いのち」そのものに関わる。

2023年5月12日のユーザーズアクション代表2名との面談で知事は、4病院再編が「政治問題ではない」旨の発言をした。一方で新提案の度に＜公約実現＞を強調し、知事自ら「政治問題」にすることで4病院再編を正当化しようとしていることに強い憤りを覚える。

我々は他の県民同様に主体性をもっていることをご認識いただきたい。そして、真摯に精神医療ユーザーの声に耳を傾け、「にも包括」維持発展を軸とした現在地及び名取市内での現精神医療センター建替を早期におこなうよう求めるものである。

最後に次に掲げる言葉に込められている意味を深く思料願いたい。

「私たち抜きに私たちのことを決めるな！」

以上